

平成23年度受託研究として実施した事業（調査）内容の実績一覧

茨城大学工学部

准教授 山田 稔

1. 実験運行の評価検証およびバスニーズ調査

- ・ 路線バス事業者との意見交換会に参加し、路線バスの利用の現況と利用活性化策の可能性について意見交換を行った
- ・ 第1回協議会における、デマンドタクシー事前調査アンケートの結果の要旨の説明資料を作成し、説明および質疑への対応を行った
- ・ 利用者専門部会において、事前調査アンケートの結果の要旨を説明し、一層の利用促進の働きかけについて協力要請を行った
- ・ デマンドタクシー事後調査に関する、利用者および非利用者アンケート票の作成、対象者の抽出、郵送配布・回収を行った
- ・ 同 事後調査の集計・分析を行い、デマンド交通の効果評価を行った
- ・ 予約記録データに基づき、予約成立の状況と、運行効率に関する分析を行った
- ・ アンケート結果による利用強度データを使って、将来の需要量の推計を行った
- ・ オペレータおよび運転手にヒアリングを行って上記の分析内容について確認した
- ・ 事後調査および記録データについての分析の途中経過について、第2回協議会における説明資料(添付資料3~6の要約)を作成し、説明及び質疑への対応を行った

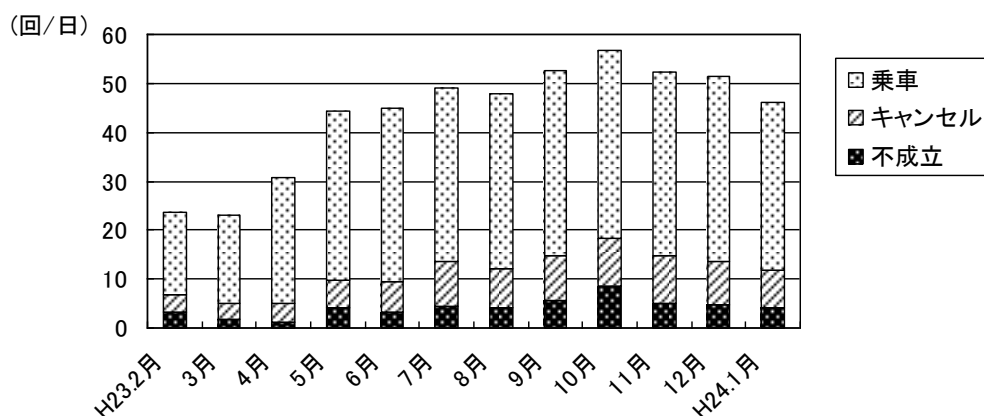
2. Web ページを用いた情報提供

- ・ デマンド交通の登録者数及び利用状況の月ごとの状況を、Web で提供を行った
- ・ 利用者アンケートやログデータ分析の結果について、協議会に報告した内容に即して、Web で提供を行った
- ・ 協議会の協議内容について、Web で提供を行った

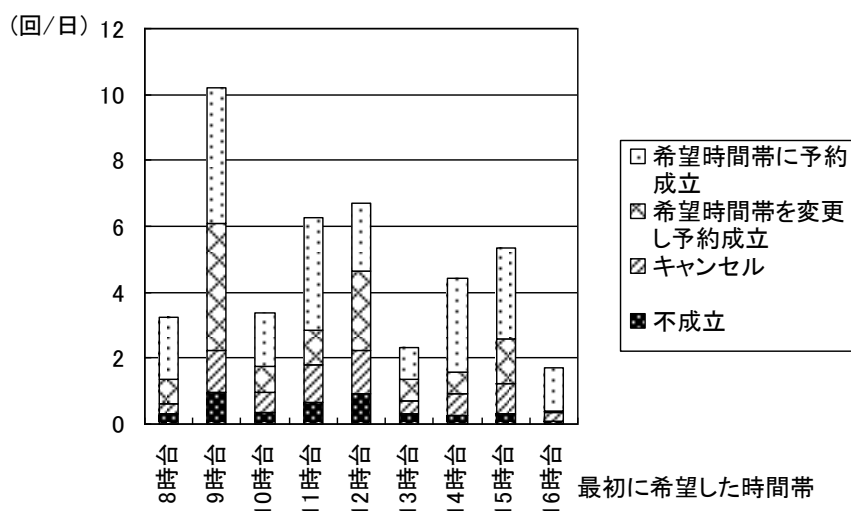
以上

(1) 予約の空き状況について

- ・ 利用申込みの際に、希望する時間帯ではどこも予約がいっぱいで利用できないケース(以下、「予約不成立」と呼ぶ)の発生状況を集計しました。
- ・ 下図の月ごとの比較では、5月までの間、利用が大きく伸びたいるにもかかわらず、不成立はさほどの変化は見られていません。しかし、その後、10月までに徐々に申込件数が増えるに連れて不成立が徐々に増えていると見ることができます。
- ・ 11月以降やや利用が減っていますが、季節変動と思われます。
- ・ 不成立の割合は、比較的使用が増えてきた5月以降の平均で、申込み総数の9.9%となっています。

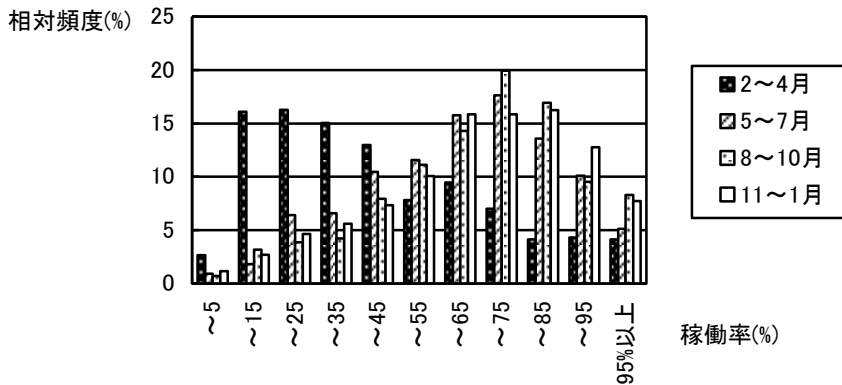


- ・ 申込み時の一番最初に利用者が希望を告げた利用時間ごとに、予約の成立状況を集計した結果が下図です。
- ・ 9時台と12時台で利用の希望が多く、結果的に不成立になるものもその時間帯での利用希望が多いことがわかります。また、同じ時間帯のなかでは空きがなくても、他の時間帯に希望を変更して予約成立させているケースも少なくないことがわかります。



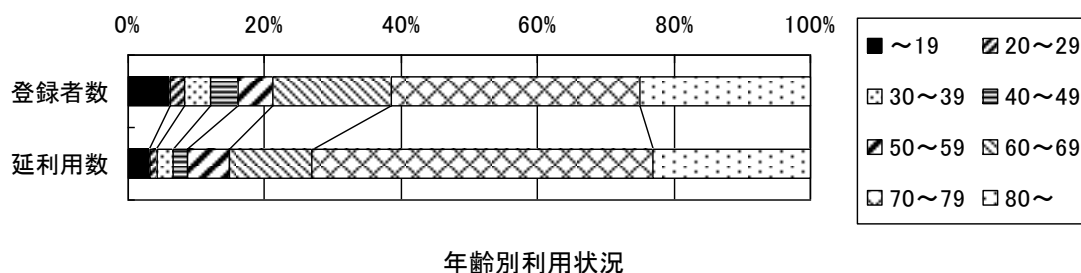
(2) 稼働率の推移

- ・ 車両が走行していた時間(回送を含む)の割合を稼働率と考え、1 時間帯ごとの稼働率の発生状況を、3 ヶ月ごとにわけて集計してみました
- ・ また、稼働率が 75%をピークに、より高い稼働率はさほど発生していないことがわかります。これは、車両の運行で利用されていない残り時間が小さくなってくると、新たに予約申込みがあってもそれが残りの時間で運行できるものでないと受け付けることができないため、より余裕のある他の時間帯に利用が流れていっているものと考えられます。したがってこういう時間帯では予約が取りづらい状況が発生していると推測できます。
- ・ 稼働率が 75%を超える状況は、2~4 月では全体の 13%であったのが、5~7 月 29%、8~10 月 35%、11~1 月は 37%と増加して来ています。



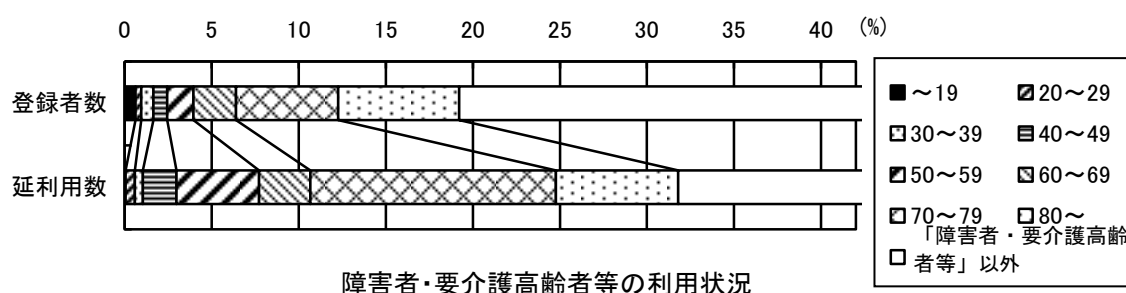
(3) 年齢別の利用頻度

- ・ 70 才以上の利用が多くなっています。
- ・ 登録者数の年齢構成比と比べれば、70 代・80 代では、一人当たりの利用頻度が相対的に高いことがわかります。
- ・ 60 代では、利用頻度が相対的に低く、運転できなくなったときのことを考えて登録したが実際には必要ない人も少なくないと思われます。
- ・ これに比べて、50 代では一人当たりの利用頻度は 60 代よりも大きくなっており、本当に必要な人が登録しているものと考えられます。
- ・ 10 代までの利用が少ないのは、家族が予約したものを一緒に利用するケースがあることが影響していると思われます。



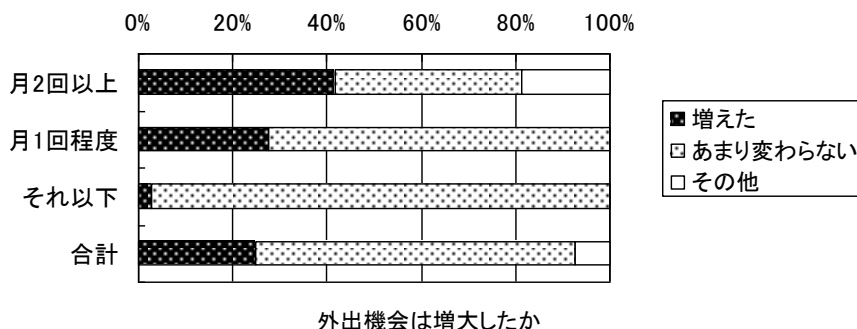
(4) 障害者・要介護高齢者等の利用

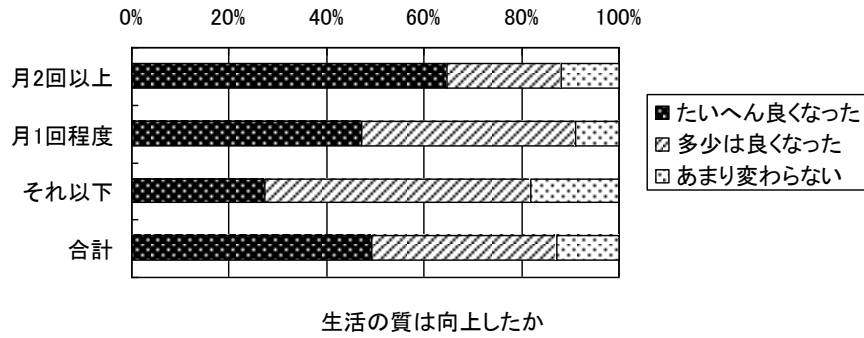
- ・ 利用料金の規定にある「身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、自立支援医療受給者証を交付されている人、介護保険法における要介護者・要支援者」に該当するか否かが利用データに記録されているので、これに該当する人に着目して利用状況を集計しました。
- ・ 該当者が全体に占める割合は、登録者数では 19.1%（H24.2 月末現在）ですが、延利用回数が全体に占める割合では 31.8% となっており、積極的な利用傾向にあることがわかります。



(5) 利用者アンケートにみる「外出機会の増大」「生活の質の向上」への貢献

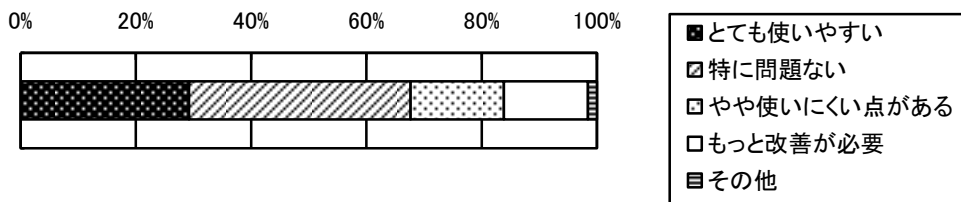
- ・ 2～7月の利用が3回以上の人を対象に10月に実施したアンケートのデータの結果を用いています。
- ・ 外出機会の増大、生活の質の向上のいずれも、利用頻度が高いほど効果が大きいという傾向にあり、【あみまるくん】がより利用しやすくなって利用が増えれば、外出頻度の増加や、生活の質の向上の実感もより大きくなると期待されます。
- ・ 外出頻度の変化はさほど大きいわけではありませんが、生活の質の向上では、ほとんどの人が多少なりとも向上したとの回答になっており、幅広くデマンド交通が評価されていることがわかります。



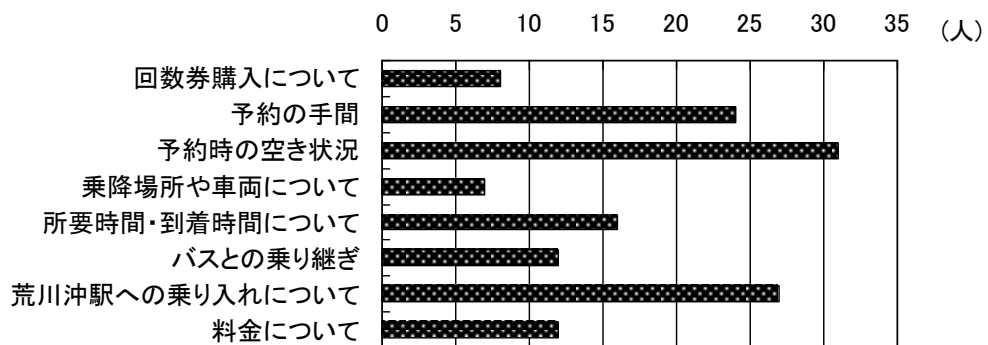


(6) 改善の要望と課題

- 利用者アンケートでは、67.6%が、「とても使いやすい」「特に問題ない」と答えており、概ね、評判は良好です。



- 上で、「やや使いにくい点がある」「もっと改善が必要」と答えた人 40 名について、その理由を集計した結果が下図です。
- 「予約時に空きがないこと」への指摘が最も多くなっています。アンケートで聞いた予約が取れなかった経験の回数は、2~7月の間に平均でわずか0.8回ですが、それでも意識の上では大きな比重を占めていると言え、前述のように希望以外の時間帯で利用しているケースが少なくないことも影響していると思われます。
- 次いで、「荒川沖駅に乗り入れていないこと」が指摘されています。



- 全回答者においても、予約の空き状況の改善と、荒川沖駅への乗り入れへの期待は、高いことがわかります。

